

光西寺だより 第41号

海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「隠れ念仏の歴史を偲ぶ」

光西寺副住職 田中 咀釈



先日、ご法話をしに鹿児島県に行ってきました。皆さんは「隠れ念仏」の歴史をご存知でしょうか。「隠れキリシタン」ならぬ「隠れ念仏」の歴史が島津藩（鹿児島県）中心の地域にあります。記録によると、少なくとも1598年（慶長2年）から1876年（明治9年）までの約三百年に亘って、浄土真宗は島津藩で禁止されていました。理由は、為政者から平等の教えが危険視されたこと、お金の本願寺へ流出することなど様々あるようです。

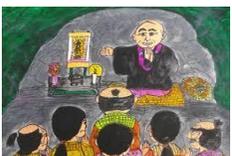
その実態はとても厳しく、浄土真宗を信仰しているものがみつかるのと捕えられ拷問（逆吊り・割れ木責め・水責めなど）にかけられ、改宗の意思がないものは斬首・磔・火あぶりの極刑に処せられました。その拷問で膝の上に載せられ



たという大きな石が本願寺鹿児島別院の境内に「涙石」として今も残されています。特にひどかった天保の法難では、延べ十四万人の方が検査されたといわれています。

そのような禁制の時代にあっても、夜な夜な山の中にある洞窟（洞穴のようなせまい空間）などに集まり、阿弥陀様をご安置してお勤めをして仏法を聞き、お念仏を申されていたのです。まさに命懸けで仏法をいただき法灯をつないでくださった方々の歴史があるのです。このたびご縁を頂いたお寺にも隠れ念仏の歴史を偲ぶことが出来る小さな阿弥陀様と焼け焦げた阿弥陀さまなどが残されておりました。光西寺のご門徒も鹿児島出身の方がとても多いです。

このたび鹿児島布教のご縁を頂いたおかげで鹿児島の法灯をつないでくださった方々の苦勞と土徳を知ることが出来ました。 合掌



※正信念仏偈の意味を知ろう

正信…如来の言葉を信じる
(絶対に救う)

念仏偈…嬉しい時も悲しい時も
も唱える讃歌

*正信偈は親鸞聖人の著作であり、浄土真宗の立教のいわれを著わした「教行信証」の「行の巻」の最後に書かれているものです。

○矜哀定散与逆悪

自力の善行の人も、極悪の人も共にこれをあわれみ(矜哀…こうあい)

○光明名号顕因縁

如来の光明と名号が救いの手だてであることを明らかにされた

○開入本願大智海

広大な阿弥陀如来の本願の智慧の

海に入らせてもらおうと

○行者正受金剛心

行者は正しく金剛(こんごう)のごとく堅固(けんこ)な信心を得て

○慶喜一念相應後

お念仏をよるごぶ心(慶喜一念信)がおこつたとき

○与韋提等獲三忍

韋提希夫人(いだいけぶじん)と等しく三忍(さんにん)の徳を得て



(続きは次号にて)

親鸞
Love Sinran

年頭法要並びに前坊守
田中泰江三回忌のご案内

あわただしい師走となり、何かとご多用のことと存じます。本当年が早く感じます。

初代坊守田中泰江が昨年一月六日に七十四歳の生涯を終え還浄して早や二年を迎えようとしています。新しい年を迎えるに当たり、仏祖に年頭のご挨拶を申しあげ、年頭法要と前坊守の三回忌を併修させていただきます。

どなた様も是非お誘いあわせ、お参り下さい。
(法要のあとぜひご用意しております。)

一月 七日(日) 一時半

講師 島根県邑智郡

本願寺派布教使・西福寺若院

小笠原 宣隆 師

*歩行困難等の送迎希望者は三日前迄にご相談ください。

ようこそそのお参り 有難うございました 報恩講の様子



豊中市仏光山如来寺様よりいただいた全長二〇坪の五色幕を報恩講法要で初めて飾らせて頂きました。岡山より来ていただいた田井先生には阿弥陀様のお慈悲のお話をご自身の体験談もまじえて面白おかしくお話いただきました。来年もお参りお待ちしております。

御正忌報恩講に本願寺ご参拝を

来年一月九日から十六日まで本山・影堂で御正忌報恩講が営まれる。全国から多くの人が参拝し期間中にさまざまな行事が行われる。また御正忌の風物詩として親しまれる「お斎(精進料理)」の申し込み受付が十一月一日から始まった。(本願寺新報より)



お斎は一人一万円以上の懇志進納に対するお扱いとして行われます。一月十日から十五日まで午前十時の日中法要(午前十一時頃)です。お斎の申込み問い合わせは本山参拝教化部まで
〇七五 (三七二) 五一八一

今月の掲示板

「ほとけさま」は
お姿は見えませんが
声となって
いつでもどこでも
私にとどいて
一緒にいて
くださいます



永代経法要のお知らせ

平成三十年

四月十四日(土) 一時半より

十五日(日) 一時半より

講師 島根県浜田市

本願寺派布教使 正念寺住職

藤澤 行治 師

平成三十年 年回表

一周忌	平成二十九年	往生
三回忌	平成二十八年	往生
七回忌	平成二十四年	往生
十三回忌	平成十八年	往生
十七回忌	平成十四年	往生
二十五回忌	平成六年	往生
三十三回忌	昭和六十一年	往生
五十回忌	昭和四十四年	往生

法話と茶話会の開催日

お寺でお茶をしながら他愛もない会話を楽しみませんか？
どなた様もお待ちしています。

平成三十年

二月二十三日(金)

午後二時

*仏説阿弥陀経を一緒に読経

*副住職法話

*ティータイム(茶話会)



若坊守のひとりごと

人はなぜ相手の言葉だけで信用してしまうのだろう。最近では結婚相手が変わるたびに毒殺したり、ネットで悩む人に優しい言葉で誘い出し殺す事件が起きたが共通点は言葉。その優しい言葉に裏付けられる行動があるのかまで見ようとならないからなのではないか。

騙す人は天才的に相手の心をつかむ言葉を操れるのだろう。被害者にならない為には相手の行動をよく観察してから信用できる言葉なのかを判断した方がいいと思う。

